

今井2位 女子100自

競泳

ジャパン・オープン

競泳のジャパン・オープン第3日は2日、東京アクアテイクスセンターで行われ、男子200メートルバタフライは東京五輪銀メダリストの本多灯(イトマン東京)が1分53秒99で優勝した。

200メートル個人メドレーの女子は成田実生(金町SC)が2分10秒70で1日の400メートルに続いて優勝した。東京五輪2冠の大橋悠依(イトマン東進)は2分11秒08で2位。男子は小方颯(イトマン港北)が1分57秒65で1位だった。女子200メートルバタフライは、7月の世界選手権で2位

に入ったエリザベス・デッカーズ(オーストラリア)が制した。内田かりん(山梨中央銀行)が2位、三井愛梨(法大)が3位で続いた。

県勢は女子100メートル自由形で今井月(ハローHD)が55秒13で2位。吉永晴香(岐阜県商高)は自己新記録の55秒83で8位に入り、高校生で唯一入賞を果たした。

予選から修正 本多200バタV

男子200メートルバタフライで自己ベストを出した前回大会の再現はならなかったが、本多は一定の満足感を示した。疲労の影響もあり1分55秒台に終わった予選からレース直

前の準備を修正。決勝は53秒台に上げ「やれることはできた。良い面、悪い面の収穫がたくさんあった」と振り返った。

強化を優先する時期であることに加え、大会3日目では体に重さを感じていた。予選前はウォーミングアップの量を少なめにして精彩を欠いた。その反省からレース前にしっかりと体を動かした決勝は序盤から先頭を譲らず、得意の後半で突き放した。

金メダルを期待された今夏の世界選手権は3位だったが、杭州アジア大会は2冠達成。今大会は400メートル個人メドレーで自己記録を更新し、目標とする200メートルバタフライでのパリ五輪金メダルに「近づいている確信はある」と言った。まずは来年2月の世界選手権(ドーハ)で、確信を深める結果をつかみにいく。